

# 来週の「売り物記事」はこれ



2018年3月16日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 米アカデミー賞受賞 辻一弘さんの軌跡

18日(日)



米映画界で最高の栄誉とされるアカデミー賞のメイキヤップ&ヘアスタイリング賞に輝いた、米ロサンゼルス在住の辻一弘さん(48) =写真左。チャーチル元英首相を描いた作品で主役に施した特殊メイクが「魔術師のようだ」と絶賛されました。若くして単身渡米し、脚光を浴びるまでになった彼を突き動かしてきたものとは。今も探究心を失わない辻さんの歩みを追います。



執筆者はロサンゼルス支局の長野宏美記者です。

## タイムズ、フィガロ…東京特派員らが辛口批評

### 「森友文書改ざん」海外からの厳しい「目」

夕刊特集ワイド 19日(月)



学校法人「森友学園」への国有地売却問題は、財務省による決裁文書改ざんが明るみに出たことで、安倍政権を揺るがす事態へと発展しました。では、海外メディアの記者や識者は、このニュースをどう分析し、どう伝えようとしているのか。英タイムズ紙やフランスのフィガロ紙などの東京特派員らに聞くと、日本の良きイメージを一変させかねない重大スキャンダルと見ていることが浮き彫りになりました。その厳しい視線とは――。

## 「旧優生保護法企画」

くらしナビA面 23日(金)から

今年1月、旧優生保護法下で強制的に不妊手術を受けさせられた女性が国に損害賠償を求める訴訟を起こしました。障害ゆえに周囲から出産を反対され、不妊手術の被害を「我が痛み」と訴える女性たちが地道な活動を続け、被害当事者が声を上げる契機を作りました。障害のある子を育てる親は、この社会をどう見つめているのか3回にわたって掲載します。



## 長寿リスクに備える年金対策

くらしナビA面 22日(木)



「人生100年時代」といわれるなか、長い老後を過ごすための資金をどうするかは大きな問題です。現役世代が老後を迎えたとき、公的年金を少しでも増やす方法がいくつかあります。その一つが年金を受給する年を65歳より後にすることです。現行制度で一番遅い70歳からの受給にすると年金額は42%増えることに。このほかにも増やす技はいくつかあります。

## それホント? 進む高校共学化

週刊 サラダぼうる B面 19日(月)

全国の高校で男女共学化が進んでいます。戦前は当たり前だった男女別学も、戦後の教育改革で原則共学化。別学のまま残った学校も男女平等意識の高まりや少子化で次々と共学になっています。文部科学省の調査では今年度別学だった高校は全体の8.4%で、1990年度の18.5%から激減しました。昨年4月、男女共学となった高校を記者が取材しました。



## 「年金カット策」 4月に一部施行 医療・福祉面 21日(水)



2016年12月に成立した年金制度改革関連法、別名「年金カット法」に盛り込まれた年金カット策の一つが4月に施行されます。物価や賃金があっても年金は減らさないルールは変わりませんが、減らすはずだった分は、物価や賃金が上がった年にまとめて差し引かれることとなります。この4月も年金額は変わりませんが、減らすはずだった0.3%分はいずれ引かれます。年金カット策の詳しい仕組みを解説するとともに、なぜ国がこのような仕組みを導入するのか、狙いや背景についても説明します。

### 中国国家主席の任期撤廃

#### 中央への権力集中 「習近平帝国」への布石か

オピニオン面 [論点] 23日(金)

「習近平帝国」への布石でしょうか。中国の全国人民代表大会(国会)は「2期10年まで」と定められている国家主席任期の上限を撤廃する憲法改正案を可決しました。習近平国家主席=写真=は2期目の任期が切れる2023年以降も権力の座にとどまり、「終身国家主席」も可能になります。背景や国内外への影響を中国事情に詳しい3人に論じてもらいます。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

### 春はセンバツから 選抜高校野球大会が開幕

一面、スポーツ面など 24日(土)



選抜高校野球大会(毎日新聞社、日本高野連主催)が23日、阪神甲子園球場で開幕します。第90回の記念大会となる今回は、一般選考33校、21世紀枠3校の計36校が出場。16日には組み合わせ抽選会が行われ、史上3校目の春連覇を狙う大阪桐蔭(大阪)の初戦は大会第4日の第2試合、21世紀枠の伊万里(佐賀)と対戦することになりました。春はセンバツから——紫紺の優勝旗をつかむのはどこのチームでしょうか。